

平成30年度 第1回学校評議員会報告

- 1 日時：平成30年5月17日（木）15：30～16：30
- 2 場所：本校応接室
- 3 出席者：学校評議員5名、学校5名（校長、副校長、事務長、総務主任、総務担当）
計10名
- 4 次第：（1）開会 （2）校長挨拶 （3）出席者自己紹介 （4）学校概況説明
（5）平成30年度学校経営計画について （6）質疑応答 （7）閉会
- 5 内容：【校長挨拶】

日頃から地域の皆様のご支援に感謝申し上げます。本年度は35名の新入生を迎え105名の生徒数となっている。生徒の進路実現、安全、健康な学校生活に尽力している。また、今年の10月には創立70周年記念事業を控えており、事業成功に向けて学校一丸となり取り組んでいる。本日は、本校の取組や課題、将来のあるべき姿等について、忌憚のないご意見を賜りたい。

【学校概況説明】

副校長より口頭説明

【学校経営計画】

資料により校長より説明

【質疑応答】

A氏：今後、生徒数が減った時の部活動等に対する取組について教えてほしい。

校長：これまで以上に中高連携を強化し、部活動の維持、進学実績の向上を目指したい。地元の中学生在が本校へ入学するような魅力ある学校をつくり上げることが、これからの課題である。今後検討会を開き、部活動のあり方などについて話し合う予定である。

B氏：進学を希望する子に対して、「大野高校は進学指導が充実している」というアピールがあればよい。

校長：本校は、進学の生徒と就職の生徒が混在しており、指導が多様化している。学校としても進学指導体制の確立に努めているところである。結果だけでなく、指導の過程も情報発信していきたい。

B氏：中学校と高校では指導に必要な生徒の情報は共有されているのか。

校長：共有されている。

B氏：高校を維持するための対策などについて教えてほしい。

校長：私たちの使命は、この地域から大野高校を無くさないこと。大野中学校からの進学実績が本校の存続に関わっている。大野中学校との連携を強化し、多くの生徒が入学してくれるような学校を目指したい。

C氏：今後は、小中高の連携が必要。大野中学校と大野高校は附属学校のような関係になっていることが一つの魅力として考えられる。また、中学生は地元志向が高いことに加え、大野高校が個に応じた指導をしてくれていることに期待をしている。

校長：魅力ある学校を目指す立場として、中学生が「個に応じた指導をしてくれる学校」という認識を持っていることはありがたい。また、小中高の連携の一環として、部の合同練習の他、部活動指導などにおいて、地域の人材を活用することも考えていきたい。

D氏：大野高校の良さを中学生の保護者や近隣住民が知るためのアピールが必要であると考えられる。また、学校経営計画に記載されているいじめ防止対策の取組についても情報発信してほしい。挨拶は昔から良いため、継続してほしい。

校長：行事や大会、進路指導の結果のみではなく、今年は進行形の取組なども外部へ発信をしていきたい。

E氏：昨年度の久慈平荘との合同避難訓練は地域連携に関してとても評価できると共に、今後の展望が期待できる。

校長：地域連携はキャリア教育の観点からも重要であると捉えており、今後も継続をしていきたい。

A氏：学校再編の状況について教えてほしい。

校長：平成31年度の再編計画については、今秋に県教委から公表される。

- 6 その他：次回の学校評議員会は2月20日（水）に開催予定である。